

近年、技術者教育において、専門知識の習得だけでなく、人間性の涵養や倫理観の育成が強く求められている。このような背景の中、KIT-IDEALS を実践する意義は、現代の技術者に求められる三つの重要な力を育成できる点にあると考える。その三つとは、「技術と人間性の調和」「創造的な協働力」「自律的な成長力」である。

まず、「技術と人間性の調和」について論じる。内閣府の「Society 5.0ⁱ」の実現に向けた提言では、技術の社会実装において人間中心の視点が不可欠であると指摘している。この観点から、「Kindness of Heart (思いやりの心)」と「Intellectual Curiosity (知的好奇心)」の両立は極めて重要である。実際、情報システムの開発において、ユーザー中心設計 (UCD) の重要性が指摘されており、技術的な最適化だけでなく、使用者への共感的理解が求められている。私が「国勢調査の知名度向上」を目的としたゲーム開発を行ったプロジェクトデザインIIでの経験も、この知見と一致する。国勢調査に親しみを持ってもらうため、ゲーム要素を取り入れた結果、調査の重要性をユーザーに自然に理解してもらうことができた。特筆すべきは、プレイテストの際に寄せられた意見で、使いやすさと楽しさの両立が求められていた点である。プレイヤーからのフィードバックを通じ、技術的な洗練よりもユーザーへの共感がシステムの有用性向上に大きく貢献することを学んだ。また、思いやりや好奇心は、単なるユーザー理解にとどまらず、他者の立場を考えながら技術を応用する姿勢にも影響を与える。この経験から、技術者にとって「人を中心に考える」視点の重要性を改めて認識した。次に、「創造的な協働力」の育成について述べる。経済産業省が提唱する「未来の教室ⁱⁱ」では、多様な専門性を持つ人材の協働が、イノベーション創出の鍵であると指摘している。

「Team Spirit (共同と共創の精神)」と「Leadership (リーダーシップ)」は、まさにこの要請に応えるものである。プロジェクトデザインIIでの私の経験もこの理念を実践するものだった。技術レベルの異なるメンバーとの協働を通じて、多様性が創造性を高める要因となることを実証的に理解できた。特に印象的だったのは、データベース設計において発生した問題解決のプロセスである。当初、私は効率性を重視した設計を提案したが、ビジネス系の知識を持つチームメンバーから、将来の拡張性や運用面での課題を指摘された。この異なる視点からの指摘により、より実用的な設計に改善することができた。さらに、リーダーシップの実践では、各メンバーの強みを活かしながら、チーム全体のパフォーマンスを向上させる方法を模索した。例えば、進行役としてプロジェクトの全体像を整理するだけでなく、各メンバーの役割や意見を積極的に尊重することで、意欲的なプロジェクト運営が可能になった。

最後に、「自律的な成長力」の重要性を主張する。「Autonomy (自律)」と「Self-Realization (自己実現)」に基づく継続的な学習姿勢はこれから不可欠である。私の具体的な実践として、プロジェクトへの参加経験がある。この活動を通じて、グローバルな開発コミュニティとの協働や、最新技術への適応力を養うことができた。特に、国際的なデータベースの最新トレンドや、異なる技術環境での問題解決のアプローチを学び、自分の技術力に新たな視点を加えることができた。また、「Integrity (誠実)」の実践は、技術者倫理の観点からも重要である。AI や個人情報保護など、現代の技術者には高度な倫理観が求められるため、インターシップを通じて技術的な実装の選択が社会的影響を持つことを体感した。このような経験により、技術の社会的責任についての深い理解が得られた。また、これら三つの力の相互関連性について、教育工学の観点から考察する。KIT-IDEALS の九つの要素は、まさにこの統合的

アプローチを具現化したものと言える。特に注目すべきは、「Diligence（勤勉）」と「Energy（活力）」が、継続的な成長を支える基盤となっている点である。技術革新の速い分野における持続的な学習には、内発的動機付けが重要だと考える。KIT-IDEALS の実践は、まさにこの内発的動機付けを培う機会を提供している。このように、KIT-IDEALS を実践する意義は単なる技術力向上にとどまらず、社会的課題を解決できる技術者を育成する教育理念に基づいている。特に、情報技術分野では人間中心の設計や倫理観が欠かせないため、技術を通じて社会に貢献する力を養うことが重要だと考える。また、これらの実践によって、技術者自身も自己成長を続ける姿勢が身につく。自律性や創造性、共感力をバランスよく伸ばす KIT-IDEALS の実践は、技術者が将来にわたって持続的に社会に貢献し続けるための確固たる基盤となる。

参考文献

ⁱ Society 5.0, 内閣府, https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/, 2024. 10. 20 閲覧

情報技術者倫理の現代的課題, スギモト技術士事務所, 杉本泰治, 土木学術論文集 H (教育) Vol. 2, 11-20, 2010. 3

ⁱⁱ 未来の教室, 経済産業省, <https://www.learning-innovation.go.jp/>, 2024. 10. 20 閲覧